國前寺「草堂寺」訪問団 報告書

平成11年4月13日

目 次

はじめに

1.訪問団名簿

2.訪問時期

3.訪問先

4.草堂寺訪問および友好交流覚書調印について

5.西安旅行日誌

6.関係者連絡先

7.日本国國前寺と中華人民共和国草堂寺との友好交流に関する覚書

はじめに

広島市の日蓮宗本山國前寺は、当地に住んでいた僧暁忍が日蓮の直弟子の日像に会い日蓮宗に帰依し興した（1340年）。初め暁忍寺と称したが、江戸初期、二代藩主浅野光晟および室満姫が菩提寺としたことから、寺名を自昌山國前寺と改めた（1656年）。國前寺には、鳩摩羅什法師の木像が代々伝えられている。

西安市の草堂寺は、後秦の時代（401年）長安に招かれた鳩摩羅什法師の仏教經典翻訳のための訳経道場であった。羅什は、翌402年から413年70才で入寂するまで訳経を続け、その総数は98部、425巻と伝えられる。羅什は中国仏教三大訳経師の第一師であり、中国翻訳史上の一大翻訳家である。

鳩摩羅什法師にまつわるこのような縁から、國前寺と草堂寺は友好交流に関する覚書を結ぶことに合意し、このほど國前寺訪問団が草堂寺を訪れ、覚書に調印した。訪問団は、この機会に西安のその他の仏教遺跡などを見学した。

1. 訪問団名簿（敬称略、順不同）

団長 疋田 英親 國前寺 執事長
田岡 繁秋
梅田 邦雄
並川 幸治
森 一久
木藤 啓子

2. 訪問時期

平成11年3月26日（金）－30日（火）

3. 訪問先

草堂寺（鳩摩羅什法師の訳経道場であった。法師の舍利塔がある。）

香積寺（浄土宗の開祖善導大師を祀る。）

興教寺（玄奘三蔵の舍利塔がある。）

永泰公主墓（唐第三代皇帝高宗と皇后則天武後の孫娘の墓。）

乾陵博物館

乾陵（唐第三代皇帝高宗と皇后則天武後の合葬墓。）

法門寺（釈迦の指舍利を祀る。）

法門寺博物館

楊貴妃墓

華清池（玄宗皇帝と楊貴妃の別荘だった温泉地。）

秦の始皇帝兵馬俑博物館

大雁塔（塔のある大慈恩寺は玄奘三蔵の訳経道場で、塔は仏典の保存のために建てられた。）

碑林博物館（石碑などを収集展示。）

4. 草堂寺訪問および友好交流覚書調印について

- 1) 日 時: 3月27日(土) 10:10 - 14:00
- 2) 所在地: 西安市の南西50km。戸県の東南20km。
- 3) 住 所: 中国陝西省戸県草堂鎮草堂寺
電 話: 029-495-5437
- 4) 概 要:

西安市の南西50km。戸県の東南20km。秦嶺山脈圭峰の麓。終南山にも近い。西安市内のホテルから車で1時間40分ほどで到着。寺の僧侶、信徒の歓迎を受ける。数年前とは趣を一新し、門前には土産物屋、寺内にも新築あるいは建築中の建物が目立つ。鐘楼から見学開始。本堂は竣工した。接待所にてあいさつ。記念品贈呈（國前寺にある鳩摩羅什師像の額入り写真、國前寺縁起、同写真、風鈴、しゃもじ、クッキー）。

鳩摩羅什師像前にて読経。まず草堂寺側。宏林方丈は経を唱えつつ師像前を歩き回り、叩頭。多くの僧侶が合唱。信徒ら20名程も参加。続いて國前寺正田執事長。像前に蹲踞し一人朗朗と妙法蓮華経如来寿量品第十六を唱える。草堂寺訪問および友好覚書調印に到る経緯を思い、読経の途中胸のつまる想いがあった由。

國前寺と草堂寺との友好交流に関する覚書に調印。和文、中文各2通用意し、それぞれに代表者の署名押印。双方が1通ずつ所持する。中文覚書文言の一部を、「草堂寺と國前寺は友好文化交流往來の關係を進めることに同意した」と修正し、和文ではその箇所を同様の意味と理解することで合意した。鳩摩羅什師舍利塔見学。

ご招待に応じ、寺内にて昼食。すべて信徒による手作りの精進料理。我々一行のために1時間以上かけて遠方より信徒が参集し、わざわざ料理してくれたと聞き感激する。

草堂寺側より次の3点を頂く。鳩摩羅什法師訳による妙法蓮華経、鳩摩羅什法師像（拓本）、草堂寺の紹介本（陝西省長安仏教研究センターまとめによる長安仏教研究叢書の中の一冊）。

なお、29日(月)夕食会に草堂寺關係者を招待し、歓談した。監院釋諦性

氏、僧侶釋理証氏、戸県甘亭鎮退職幹部李新亜氏が西安市内での夕食会に出席した。（方丈釋宏林氏は同日寺に日蓮宗代表団を受け入れたため、その対応で疲れ、夕食会には不参加。）國前寺疋田氏より、草堂寺の釋宏林方丈を含む2-3名を今年の内にも広島にご招待したい旨、提案した。諦性氏によれば、方丈は飛行機に乗り来日すること可能の由（27日面談の折、森氏が方丈に来日の可能性を尋ねたところ、可能との返答を得ている）。日本側より招待状を宏林方丈ならびに諦性氏あてに発出することとした。諦性氏より、中国から外国へ出かけるには上の許可が必要で、難しい面があると打ち明けられた。このため、森氏より中国仏教協会幹部に働きかけ、草堂寺一行の来日を実現させたいと提案したところ、草堂寺側は大いに喜んだ。疋田氏は同寺の当主英政氏が87才で健在なので、ぜひ宏林方丈に早目に来日して会ってほしいと述べた。諦性氏もぜひそれを実現させたいと答えた。

5. 西安旅行日誌

3月26日（金）

14:10 広島空港2階国際線カウンター前集合

16:30 広島発（定刻より20分遅れ）（中国西方航空WH294上海経由）

17:30 上海着（現地時刻）

一旦飛行機を降り、入国手続き。

継続して西安行きは我々6名を含む合計9名のみ。

18:20 上海発

中国風機内食。

20:30 西安咸陽空港着（広島から所要時間5時間）

草堂寺方丈釋宏林氏、同寺監院釋諦性氏、戸県甘亭鎮退職幹部李新亜氏および受入れ先である中国陝西海外旅遊総公司日本市場部黄銀燕さんの出迎えを受ける。専用借上げバスにてホテルへ移動。宏林方丈は現在は体調良好の由。

21:30 ホテルにて覚書調印について打合せ。

22:30 ホテル内レストランにて夕食。

<西安凱悦阿房宮飯店（ハイアットリージェンシーホテル）泊>

3月27日（土）

7:00 モーニングコール

7:30 朝食（ホテル内レストランにてバイキング）

8:30 ホテル発（専用バスにて移動）

大雁塔を前方に見ながら南下、城外へ。幅狭ながらも舗装された道路、

細く続く両側の落葉樹並木。周囲は一面緑色の麦畑。レンガ造りの集落が点在する。自動車、人、自転車、荷車がそれぞれのペースで道を行く。バスの運転手は頻りにクラクションを鳴らし、邪魔者を追い立てる。3カ月雨の降らない土地はどこもほこりっぽい。

10:10 草堂寺着

(前記のとおり)

14:00 草堂寺発

14:30 香積寺着

西安市の南西17km。神禾原にある。706年浄土宗の開祖善導大師の弟子懐憚により建立。13層の善導大師舍利塔がある。多くの建物が新築中。

15:00 香積寺発

15:40 興教寺着

西安市の東南20km。遠く終南山を望む長安県少陵原の高台にある。唐の第三代皇帝高宗により669年建立された。5層樓閣式の玄奘三蔵の舍利塔がある。左右には弟子の窺基と円測の小さな舍利塔がよりそう。

16:30 興教寺発

17:30 ホテル着

18:00 ホテル発

西安城内の中心部にある鐘樓横の有名な徳発長餃子店にて夕食。20種類の蒸し餃子。具と同じ蛙や家鴨などの形が可愛らしい。最後に水餃子で仕上げ。

20:30 ホテル帰着

<同前泊>

3月28日(日)

6:30 モーニングコール

7:00 ホテルにて朝食

8:00 ホテル発

西安の城壁を出、北西方向へ。鉄橋を渡り、水涸れた渭水(黄河の支流)を越え、西安-咸陽の高速道路に乗ると景色が開ける。緑の麦畑、菜の花畑が続く。地平線は遙か彼方。高速を離れ、乾陵へ向かう。ほこりっぽい黄土色の大地にレンガ造りの民家が続き、広い畑で農作業をする人の姿を時折認める。乾陵に入ると道路の両側に林檎畑。緩やかな丘にかかり菜の花の段々畑、気のせいか風景が幾分瑞々しさを帯びる。なだらかに広々と延びる乾陵一帯。独特のヤオ洞が点在する。

10:00 乾陵着

西安市の北西95km。陝西省乾県。

永泰公主墓見学。永泰公主は唐の第三代皇帝高宗と皇后則天武后（後の第四代皇帝）の孫で、701年17才で落命した。正史では難産で死亡、外史では武后から夫とともに死を賜った由。墓道を下ると、地下の墓室に石棺がある。墓室の天井には日、月、満天の星が描かれている。墓道の色鮮やかな女官壁画はとりはずされ、現在は西安市内の陝西省歴史博物館に保存されている。等身大の女官図はふくよかで、豊かな髪、太い眉。当時の風俗をよく伝える。

乾陵博物館見学。乾陵からの出土品を保存、展示している。

乾陵見学。乾陵博物館より車で10分。乾陵は唐の第三代皇帝高宗と皇后則天武后との合葬墓。乾陵の海拔1047mの梁山を利用して造られた。両脇に大型の石人石馬などが並ぶ参道伝いに、今はその名残を留めるのみの陵墓内城壁の入り口まで登る。四周にはさらに大きく巡らされた外城壁があったという。周囲には17の陪塚が散在する。そのうち高宗と則天武后の息子章懐太子、孫息子懿徳太子、孫娘永泰公主の墓等5箇所が発掘調査された。手作りのアップリケ装飾品を売るこどもたちの「十二支十元！」の呼び声が耳に残る。

11:30 永泰公主墓前の餐厅（レストラン）にて昼食。

ナン風のパンと、甘く味付けた糯米の蒸しデザートが印象的。そうめん風の麺が美味。

12:20 レストラン発

行けども変わらぬ黄土色の大地とレンガの家々。細く続く道路に並木、麦畑、菜の花畑、点在する集落、たむろする人々。自転車、自動車、トラックが我先にと急ぐ。「一人っ子政策を進め、人々の幸せを、優れた人材育成を！」のスローガンを各所で見る。臨平県を經由。

14:00 法門寺舍利塔、法門寺博物館見学

西安市の西110km。扶風県法門鎮。釈迦牟尼の入寂200年後の紀元前272年、古代インドの阿育王が仏舍利を世界各地に分骨して供養するため建立した法門寺塔が名高い。塔は13層。1981年大雨のため塔の側面半分が倒壊したため、1987年塔を修理したところ、地下宮および第一枚の仏の指舍利、その他の宝物を発見した。ほかに三枚の指舍利が発見され、第一枚が本当の指骨（霊骨）、ほかの三枚は複製（影骨）である。いずれも聖骨とされ、中国仏教協会の趙樸初会長は「霊骨は天の明月の如く、影骨は明月が地上の江河に映った影の如く」と述べた。

博物館階上のベランダから望むと、寺内には多くの建物が再建され、互いに重なり合い、波打つような屋根の形が美しい。

門前は多くの土産物屋で賑わう。露店のおばあさんの顔は日に焼けて黒光りし、心なしか西域の人の趣き有り。

15:00 法門寺発

なだらかな丘を登り降りしつつ進む。景色はどこまでも土の黄土色に草の緑。近在の祭りに遭遇。道路両脇の広場から車道まではみ出す人の群れ。京劇風の劇が広場中央に設えた舞台にて上演中。その音楽がスピーカーを通してボリューム一杯に聞こえる。果物、生肉、揚げパン、おもちゃ、豚、家財、家具、雑多なものが売られ、買われ、見られ、食べられる。車中の我々もめずらし気に眺められた。

16:30 楊貴妃墓見学

西安市より70km。興平県馬嵬坡。楊貴妃は745年玄宗皇帝の妃になるが、755年安祿山が反旗を翻すと（安史の乱）、貴妃は皇帝とともに長安から脱出したものの兵士が貴妃殺害を迫ったため、翌756年皇帝の命により絞殺された。38才。墓は土饅頭型で敷瓦で覆われている。かつては土の墳丘のままであったが、その土を顔に塗ると肌が美しくなるというので、女性達に持っていかれたという。墓を中心に新造の楊貴妃像のほか新しい建物が建築中。観光地として整備が進む。

17:00 楊貴妃墓発

高速道路を降りて、西から西安市に入ると、化学肥料工場、製鉄所などの集まる工場地帯にぶつかり、空気が淀む。日曜日の夕方、市内に向かう車のラッシュで交差点付近で渋滞。車線の引いていない道路を片側2車線にしたり、3車線に使ったりしながら、車は要領よく走る。渋滞を抜けると西安南西部は新経済開発区。広い道路の両側に新築の現代建築ビル社屋が続く。新築アパート群も見える。

18:50 西安城南の東方大酒店にて西安料理の夕食。スープ美味。

20:30 ホテル帰着

<同前泊>

3月29日（月）

7:00 モーニングコール

7:30 ホテルにて朝食

8:30 ホテル発

建国飯店、西安動物園を右手に見て、華清路を東へ。動物園には珍しい茶色のパンダがいるという。渭水、泾水、灊水を渡る。西安-臨潼は高速道路。

9:20 華清池見学

西安市の東30km。海拔1256mの驪山の麓。3000年前の西周の時代から温泉の湯元。玄宗皇帝は楊貴妃の為に747年ここに別荘を建て（華清宮）毎年秋から翌年春まで住んだ。玄宗皇帝専用の蓮花湯、貴妃専用の海棠湯などの遺跡の上には古典的な建物が新しく建てられている。飛霜殿は玄宗と貴妃の寝室であった。1936年蒋介石が張学良

の軍に捉えられたのも華清宮でのことである(西安事件)。これを機に第二次国共合作が実現した。現在も43℃の湯が湧き、温泉地として多くの人を訪れる。驪山には麓から山頂までロープウエーが運行する。

10:20 華清池発

10:40 秦の始皇帝兵馬俑博物館見学

秦の始皇帝陵から東に1、5kmの場所にある。兵馬俑は、1974年付近の農民6人が井戸を掘っていた時、その中の楊志発氏が発見した。皇帝の陵墓を守るため殉死兵の代わりに造られた。巨大な体育館風の1号館は長さ230m、幅62m、6000点の陶俑、陶馬を有する。陶俑は180cmほどと背高く造られ、一つ一つの服装、表情がみな異なる。兜を付けず、髪を束ね、手に弓や刀などの武器を持ち、一斉に東を向いて立つ。南と北の辺の俑はそれぞれ南北を向き敵から墓を護る。記念写真を撮るため見学用通路から一段下がりそこから俑を見ると、そのリアルさに圧倒される。2号館は発掘作業の様子が見られる。3号館は皇帝近くに仕える司令官たちの合議室跡。俑は互いに向かい合い作戦会議中。4号館には始皇帝陵の西20mの場所から出土した銅馬車の複製を展示。一号車は先導車。二号車は上部が円形、下部が四角形で、天と地と東西南北を意味し、皇帝が世界の中心であることを象徴する。発掘作業が進むにつれ、博物館および周辺の施設も整備され、土産物屋などもできて、付近一帯が一大観光地となった。売店で買ったパンフレットには、その場で楊志発氏本人がサインをしてくれた。

博物館を離れ、麓から高さ47mの始皇帝陵を望む。陵墓は西安市から36km、華清池の東、驪山の麓にある。この造営のため多い時は70万人の人夫が動員された。陵墓の中には地下宮殿があり、水銀で海や川が作られ、墓に近づく者があれば矢で射殺す仕組みもあった。しかしこれらは完成後10年のうちに、項羽の軍隊により焼き払われた。

12:00 始皇帝陵発

12:50 西安市内の建国飯店のレストランにて昼食。

13:30 レストラン発

14:00 西安市榮盛齋旅遊品有限公司にて買物。

15:00 買物終了

15:10 大雁塔見学

西安南城壁東側の和平門を南下した大慈恩寺にある。648年唐の高宗が母の供養のため建立した。当時寺には僧坊1897室、僧侶300人が住んでいた。現在の規模はその10分の1。インドから多くの経典、仏像を長安に持ち帰った唐の高僧玄奘は、それらの保存のため塔を建てるよう願い出、高宗は652年インドの塔婆をまねて五重の塔を建てた。ある時寺の僧侶たちが食べ物がなく困っていると、菩薩が雁の姿になって舞い降り僧侶らに「我を食せよ」と諭したとの言い伝えから、

大雁塔と呼ばれるらしい。

15:50 大雁塔発

16:00 碑林博物館見学

西安城壁南門のすぐ内側にある。唐代の歐陽詢の書など貴重な石碑を文廟（孔子廟）に集めて保護したのが碑林の始まり。北宋末頃、現在の地に移り、収集を重ねて一大コレクションとなった。石碑の数1095。

17:00 碑林発

17:10 ホテル着

17:40 ホテル発

18:10 朱雀美食城（東方大酒店隣）にて広東料理の夕食。

草堂寺の僧侶を招待。監院釋諦性氏、僧侶釋理証氏、戸県甘亭鎮退職幹部李新亜氏を囲み夕食会。（方丈釋宏林氏は同日寺に日蓮宗代表団を受け入れたため、その対応で疲れ、夕食会には不参加。）精進料理を供する。

懇談などの概要は次のとおり。

- 1) 本日も日本の日蓮宗の代表団8名が草堂寺を訪問した。過去最大の訪問団は、1992年6月13日の360名である。（松井大周氏一行か？）
- 2) 釋諦性氏は以前日蓮宗の関係で、福岡、京都、名古屋、東京を訪れた。東京の池上本門寺に行ったことがある。
- 3) 釋理証氏（29才）は89年草堂寺に来て、92年より7年間浙江省普陀山仏学院に学んだ（専科3年、本科4年卒業）。その後、靈隱寺、天台国清寺とともに中国の三大古刹と呼ばれる同省義烏市の双林禅寺（またの名を東陽大師道場あるいは傳大師道場）にて修業し、我々國前寺一行が草堂寺を訪問した3月27日その日、同寺に戻った。これもご縁である。なお、東陽大師は、達磨さんの直弟子である。
- 4) 3月27日國前寺一行が草堂寺を訪問した時、僧侶以外に信徒らしき人々が読経したが、あれは一般の人で、「護法居士」という。護法居士は熱心な信徒で約10人いる。その中心は王雲霞氏、諦明氏（二人とも女性）である。諦明氏は家を出て出家し、草堂寺近くの廟にひとり住む。
- 5) 釋理証氏によると、寺での一日の読経は次のとおりである。
朝；楞嚴咒（経の意味か？）、十小咒、心經、觀音偈、觀音文、繞念觀音聖号、普賢十大願、三皈依（帰依の意味）、韋陀○（○はさんずいに贊の文字）。
夜；阿弥陀經、十千十每文、蒙山、阿弥陀偈、繞念弥陀聖号、浄土文、三皈依、大悲咒、念○（○はさんずいに贊の文字）。
- 6) 草堂寺にて疋田氏は、妙法蓮華經如来寿量品第十六を日本語で読ん

だが、釋諦性氏はすぐそれとわかったとのこと。

7) 國前寺側より、草堂寺の釋宏林方丈を含む2-3名を今年の内広島
にご招待したい旨、提案した。(前記のとおり)

20:30 ホテル帰着

<同前泊>

3月30日(火)

6:00 モーニングコール

6:30 朝食

7:20 ホテル発

9:35 定刻通り西安発(中国西方航空WH293)

11:30 上海着、出国手続き

12:10 上海発

14:45 広島帰着(日本時間)

6. 関係者連絡先

釋宏林 陝西省仏教協会常務理事
西安市仏教協会常務理事
西安市戸県政治協商委員
戸県草堂寺方丈

住 所: 中国陝西省戸県草堂鎮草堂寺
電 話: 029-495-5437

釋諦性 西安市仏教協会副会長
戸県草堂寺監院
戸県政治協商委員

住 所: 同上
電 話: 同上

黄銀燕 中国陝西海外旅遊総公司 日本市場部(通訳、ガイド)

住 所: 西安市長安路北段15号

電 話: 029-526-1629、526-1516

FAX : 029-525-0761、525-0641

7. 日本国國前寺と中華人民共和国草堂寺との友好交流に関する覚書